

Lightning



ニッポン旧車! VINTAGE AUTO



コレが欲しいから
いつもの景色が
異なりました。





1 RB25用の6速スロットルが装着されたエンジンには、オリジナルのヘダースがセットされる。トータルバランスを追求したパーツはご覧のような機能美を放つ。2 ボンネットを飾る様々な外装パーツはFRPとカーボンを使用して軽量化が図られている。3 ロッキーフットのカムはいつもきっちり整備されているので、仕事であることを忘れてしまうほど、乗るのが本当に楽しみです。

LOG #007 Owner: Rocky Auto

1975 FAIRLADY Z S30 with RB25

下から上までストレスなし! NAの気持ちよさを再認識できる ハイクオリティスポーツ“Z”。

text/K.Yamazaki 山崎和彦 photo/T.Sakurai 桜井健雄
取材協力/ロッキーフット phone0564-58-7080



ちょっとした小物にもセンスが光る。カーボンボディのミラーが最高のスポーツマインドを写し出す。左 今回エンジンのセッティングを担当した向原メカからその内容を詳しく聞くことができた。

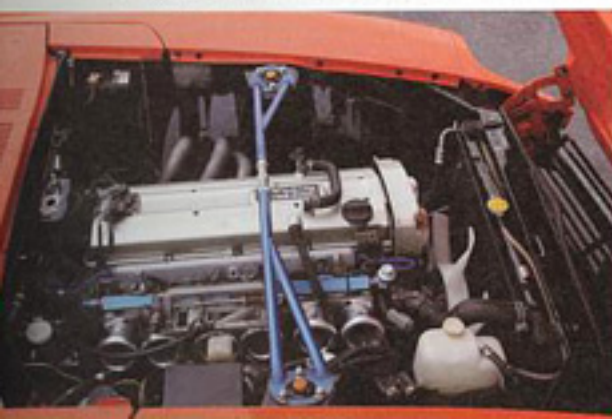
Got Z!?

今回のZ特集を編集するにあたってぜひとも紹介したい、というか正直に言ってしまうとなんか乗せていただきたい、と思っていたのがロッキーフットのシンボルとでも言うべき存在のRB25を搭載したS30だ。というのも、前回本誌でスカGのインプレをお届けするために取材した際に、渡辺社長がひと言や小さめの声で「今度またこのZにも乗ってみてください、ひと味違った面白さがありますよ」と囁いたのがずっと耳についていたのだ。社長自らお薦めの1台となれば、きつと何かサブライズがあるんだろうな、と思いつつ、私は同様に電話を入れた。もちろん返事はOK! かくして念願のロッキーフットのインプレッション取材が決まった。

取材当日、ロッキーフットにて試乗車のエンジンについて聞いた。なんとエンジンはRB25のノーマルなのだという。しかしこのマシンがかなりの動力性能を誇るスーパースポーツであることは事前情報で聞いていた。少しキョトンとする私に渡辺社長は自信ありげにこう言った。「ただし、このエンジンにはRB25用の6速スロットルが装着されています、その組み合わせをVプロのフューエルコンピュータで制御して、セッティングを出したものです」と。

ほほう、と言葉では納得するもとにかく乗ってみたいければ何もわからない。早速私は乗り込みエンジンをスタートさせた。いわゆる儀式のようなものは必要としない。ドノーマルの新車のように、短いクランキングでエンジンは簡単に始動した。

まるで出来立ての新車を見ているようなエンジンルーム。よく見れば例によってエアコンのコンプレッサーが装着されている。スロットルを握ってみると「ツツ」と、独特なマニマニな吸気音が楽しめる。このよく回るストレートシックスには五感を刺激する何かがある。



一見ただけではわからないが、ロッキーオートのマシンにはレーシングカー並みのボディワークが施される。新旧のパーツを駆使してセットアップされるシャシーと足回りは、独自のノウハウがふんだんに盛り込まれているのだ。



SPECIFICATIONS

エンジン ● RB25 ノーマル
 インジェクション ● RB26用6連+Vプロ制御
 エキゾースト ● ワンオフ等長ステンマニ
 マフラー ● ワンオフステンレスマフラー
 エアコン ● R32用オートエアコン装置
 パワステ ● オリジナル電装UCIパワステ
 ミッション ● RB20DET用
 クラッチ ● OSスーパーシングル
 デフ ● R180LSD
 Fブレーキ ● FC2M4 ゴット+R33 マスター-V
 Rブレーキ ● DR30 ディスク
 サスペンション ● F、R共 アラゴスタ製特注
 ボディ ● フロアフレーム増強、前後タワーバー
 ホイール ● ワタナベ FR5J-15 RD5J-15
 タイヤサイズ ● P205/50-15 P225/50-15



RB26用6連スロットルで
 ノーマルとは思えない
 モリモリ感のあるパワーをゲット。



ギョーンッ！と僅かにテールを沈めながら加速していくロッキーオートZ。選別社長の深い経験から得られたノウハウがみっちり詰まった大人のスポーツカーだ。

絞り出すパワー感とはまた違った味をしつかりと楽しむことができるのだ。アクセルコントロールに鋭く反応するエンジンではあるが、けして安っぽい荒くれたワイリーングではない。しつとりと落ちつた雰囲気の中で熱いものを感じるのだ。そして忘れてはならないのがその有り余るパワーをしつかりとコントロールできるだけの車体、つまり足回りやブレーキも高いレベルで完成されているということ。ロッキーオートの全ての車に共通しているポイントだ。NAでもアイディアとセッティング次第でこんなに楽しい味付けができる。ロッキーオートが追求するオリジナルワールドは、高い次元のカスタムカーマニアを納得させるノウハウを着実に構築している。



右ノブラックで統一されたダッシュにはFRP製のトップが装着され、レーシングカームードを演出している。上ノブには電気式のパワーステアリングが装着されている。本来車速やエンジン回転数で揺らぐパルスを手動で変化させることで、好みの重さにセッティングできるようになっているという。



1975 FAIRLADY Z S30 with RB25

LOG #007 Owner:Rocky Auto

LIGHTNING SPECIAL
 SPECIAL ALLOY 16 1977 WINTER
 SPECIAL PLATE
Got Z??



車高、タイヤサイズ、ホイールのオフセット、オーバーフェンダーの装着具合と、全ての要素をとことん追求している。その神経質なまでの姿勢と大胆なパワーセレクトが高い次元で融合しているのだ。

しっかりと暖気し、例によって市街地から高速道路に乗ってのインプレを行った。走ってすぐにわかったのはこのマシンのトータルバランスの素晴らしさだ。クラッチをつないだ瞬間からズ太いトルクを感じさせ、下から中速まではターボ車にはないモリモリ感を満喫でき、4000rpmを越えると今度はターボにも引けをとらない6発ならではのスムーズな、加速を体感できるのだ。この驚くほど幅のあるパワーレンジのおかげで、このZは交通量の多い市街地では低回転で普通に流れにも乗れ、いざ回転を上げて本気モードになればS30の既成概念を私拭きせるほどの目を見張るスポーツツマインドも堪能できるのである。高速で車速を上げ、5000rpmでパーシヤル状態をつくってから一気に踏み込んでみる。スウーッと後頭部に血が集まるのがわかる強烈な加速感に実には気持ちいい！ターボエンジンが



アラゴスタの特注品で固められた足回りは、当然ながら専用調整式。理想のコーナリングを求めて、まっしりとコーナーウエイトを追求できるハイクオリティパーツだ。

東京オートサロンで見た ニッポン旧車の大躍進!



取材協力/オートサロン2007
www.e-autosalon.net

去る1月12日から14日の3日間、幕張メッセで開催され、今年も大いにぎわったカスタムカーの祭典「東京オートサロン」。3日間の合計で、約25万人の人がメッセに足を運んだというのだから、世の中のカスタムカーへ人気が高いことを、実感させられる結果となった。そんな中、ヴィンテージ・オート編集部が注目するムーブメントとしては、展示車両に、ニッポンの旧車がデモカーとして用いられることが急速に増えてきたという事実。基本的に車両そのものの発表としては、当然のことながら最新型に注目が集まるのだが、ことタイヤやホイール、カスタムパ



FALKEN FK452はUSAだけの商品だが、共通ブランドインプの一貫として展示されたFALKENを代表するスポーツタイヤAZIS RT615(T)は左右非対称のハイグリップモデル。ドライ＆ウエットでパフォーマンスを発揮する。

取材協力/ダンロップファルケンタイヤ phone0120-39-2788 www.falken.co.jp

新時代を感じさせるFALKENブースには ファブリケートされたS30Zが登場。

アメリカ西海岸のカスタマイズドカーや、ラグジュアリーカー市場で大いに注目されているFALKENブランド。そのアメリカでの人気は同社が冠スポンサーを務めるドリフトイベント「FALKEN DRIFT SHOW-OFF」が開催されていることから伺い知ることができる。そんなアメリカでのFALKEN人気の仕掛け人を務めているNCK FOUSEKISE氏が来日し、日本で同じくブランディングを手がける濱田氏

と共に今年のオートサロンでのブースをプロデュースした。そこでFALKENが誇るスポーツタイヤAZIS RT615を履くクルマとしてチョイスされたのが、RB25にエンジンスワップされたロッキー・オートが製作したS30Z。日米FALKENのブランドマネージャーがチョイスしたヴィンテージ・フェアレディは、多くの来場者から注目され、最新タイヤのプロモーションは大いにぎわっていた。



日米FALKENのブランドマネージャーがチョイスしたヴィンテージ・フェアレディは、多くの来場者から注目され、最新タイヤのプロモーションは大いにぎわっていた。



驚きのスペックを誇る 歴代の著名チューニングカー。

ABR-MidnightZは最高速チャレンジを続けるS130として有名なクルマ。L28をベースに、3.1Lにスプーアップされたツインターボで、467psを発揮するエンジンに仕上げられている。特徴的なボディはこのZを手がけるABRのオリジナルパーツで、S130の定番エアロキットとして知られている。

いかにもエアロダイナミクスを重視した感あるボディシェイプに、最高速トライへの意欲を感じる。